

うしてかつての竹野の子どもたちの遊戯を紹介しつつ、現在の子どもをみてみると、何か大切なものを置き忘れていたのではないかと、つくづく考えさせられるのである。

第十三章 方言

第一節 総説

(1) 方言について

竹野町の方言を概観する前に「方言」とは何かについて考察しておきたい。

私達が日頃の暮らしの中で「方言」と言うとき、例えば竹野町なり但馬なりの一地域で使われている、共通語と異なる言葉をさしている。竹野町でいえば「エーター」（浜言葉で、しょっちゅう・たびたびの意）「マンモムジュウ」（二原言葉で、同意）などが「竹野町の方言」というものである。しかし、言葉は人間と同じく一つ一つが別々に孤立してあるのではなく、それをとりまく多くの言葉、例えば、類義語や対義語などとの関係の中で、一つ一つの言葉の意味や役割が決まってくるものである。共通語と同じ語形であっても、指し示す物や事柄が異なる場合が少なくない。竹野町の「ヤマ」は、共通語の「やま」と同じ語形ではあるが、「山」以外に「林」も「畑」も「植樹」・「下刈り」・「薪作り」などの「山仕事」も指し示すことができる。

学問的には、一地域で使用されている前出などの言葉を「俚言」と呼び、俚言も共通語と同じ言形をも含めた、一地域の人々が日常生活の中で使用している言葉の総体、つまり、「地域の言語体系」を「方言」と呼んでいる。通説に、人間は三、四歳から十四、五歳の間、いわゆる義務教育年齢の期間が「言語形成期」と言わ

第二節 竹野方言のアクセント

アクセントとは、「一つ一つの語句について社会的習慣として決まっている相対的な際立たしきの配置」と、定義されている(東国語学大辞典)。つまり、言語の中の或る音節の特に際立った高まりや強さのことであるが、日本語のアクセントは高さである。

日本語のアクセントは三つに大別されている。京都・大阪などで用いられている「京阪式アクセント」、東京・埼玉・群馬などで用いられている「東京式アクセント」、福島・茨城などで用いられている「無アクセント」である。

図41によれば、北但馬は、先の「方言区画」とほぼ同じ広がりです。東京式アクセントの区域に含まれるが、このことを、美方郡温泉町・岡田荘之輔は自著『但馬ことば』(昭和五十七年)にも、京大阪の「上方と但馬との、コトバの、アクセントが、逆になっている」と記している。その、同音異義逆アクセントの例として、但馬の「アカ」は身の垢、上方は色の赤、但馬の「アカ」は色の赤、上方は身の垢、を挙げている。他に、濃と海・旅と足袋・



図41 全日本アクセントの分布
平山輝男『日本の方言』(講談社 1968年)

旗と畑・泡と粟・橋と箸・土と槌などを紹介している。

これは、そのまま竹野町にも当てはまることであり、当町が東京式アクセントであることを示すものである。対比例を示せば表18のようになる。全町的にアクセントに大差はないが、一部語句には特異なアクセントがみられる。

京都アクセント型	所属語彙例	対応する東京語アクセント
○	庭、置ク、戸ガ	○
○	川、居ル、名ガ	○ (オル)
○	海、取ル、良イ、手ガ	○
○	雨	○
○	形、当ル、動ク、庭ガ	○ (ウゴク)
○	一人、庭モ	○ (ヒトリ)
○	心、赤イ、白イ、川ガ	○ (アカイ)
○	烏、起キル、歩ク、海ガ	○ (オキル、アルク)
○	隣寸、ギツチヨ (少数)	○
○	兜、雨ガ	○

表18 奥村三雄「方言と標準語」
(筑摩書房 1975年)

電池 || デンチ (椒) 他はデンチ

蟬 || セミ (椒) 他はセミ

草履 || ゴーリ (椒) 他はゴーリ

靴 || クツ (中地区) 他はクツ

籤 Ⅱクジ (中地区) 他はクジ

などである。

第三節 竹野方言の特徴

(1) 語彙について

竹野町の語彙の成立については、但馬の語彙の成立と軌を一にするものと考えられるので、岡田莊之輔の著書『但馬ことば』(前出)に拠り考察してみると、

① 上方に発生し、また流通している語がそのまま伝来して用いられているもので、それが当地方の言葉の大部分を占めている。

例えば、ハシリ(台所) テンゴ(いたずら) ホタエル(暴れる) エゲツナイ(卑劣) など。

② 上方に発生し、また流通している語が西下中に変化したもので①に次いで多いということである。

顕著な例は、三原・椒地区にみられる「ーンサル」の敬語補助動詞である。

③ 西方に発して漸次東進し但馬入りした語は極めて少なく『但馬ことば』にもカラツモン(焼物)の例が挙げられているが、当町については判然としなかった。

④ 但馬に発生した語はあまり多くない。竹野町にみられるオガメ(カマキリ) やモットイ(元結い・カマキリの寄生虫の意) 但馬全域のミミ(茸) などであるという。

⑤ 竹野町独自の語は、例えばショトガツシラス(赤芽膳あかめがたん)・マンムジュ(満無終・常にの意) ショテー(初

代・昔、以前の意)ボサ(食事準備のこと。米の別名菩薩ボサツから命を繋ぐもの意か)オダイビツ(大物の意か。財産のうち最も値打ちのある田地・山林のこと)という極少数の例に限られるのではないかと思われる。これらの語はいずれも、入手可能な方言辞典・古語辞典類を渉獵したが掲載されていなかった。

(2) 多様さについて

竹野町は地理的に南北に長く、北は海浜より南は中国山地の山腹に至るまでの多様な生活形態を展開する。加えて「竹野町言語地図」に付記したが、当町が明治以前複雑な権力支配下にあったこと、経済的には、竹野地域は半農半漁と水運に開け、中地域は純農業の豊穰地、かつ鉾山の余恵を受け、南地域は典型的な農山村の自給自足形態にあつて、各個有の生活と文化を育んで今日に至っている。

地理的・経済的・文化的な多様さは当然人々に、生活の豊かさをもたらし、独自の言葉を生んだ。

南地区の「藪草餅どくくさもち」や「ハップキ」(地吹雪)「ショীগツシラズ」(赤芽膳)、竹野地区の「烏賊飯」や「ダシケ」(南風)「オウーサン」(高齢女性への敬称)などに、地区の風土とそこに生きた先人の知恵と感性の深さを思わずにはいられない。また、同一の事物を指しながらも全く別な呼称を生んで(異称同義語)言葉と生活のかかわりの深さを思わせるものが多い。「空木うつぎ」が、椒では農作業時期の開花から採られた「ナエシロバナ」(苗代花)や「タウエバナ」(田植花)であるのに対して、竹野地域では「ズノキ」(髓の木)と、木の性質からの命名である。

同称異義の例も散見される。夜の漁りの「ヨボリ」は、竹野地域では「貝採り」であり、他地域はすべて「川魚漁」のことである。言葉の多様さは同時に生活の多様さの感を深くする。

(3) ン表現について

昭和二十年ごろの話である。旧制県立豊岡中学校は但馬全域から生徒を集めていた。都会から赴任していた或教師が「但馬は、餅を一本二本と数え、山は金を拾う所だ」と、但馬言葉を揶揄したことを思い出す。

それは「オメーモチーナンボンクッタ。」「キンノーヤマヘキンヒロイーイッタ。」と言うからだ、と言うのである。少々極端な言い方ではあっても、この挿話は当地方の発音の特徴をよく示している。(シは無意味)

東北地方の一部には、濁音の前に軽くンをつける発音習慣がある(例・テンギ・拍子木のこと・手木の訛)が、竹野町の言葉の中にもこのン表現の発音習慣は頻繁に繰り返されている。

(4) 音声について

① 一般に談話のテンポが緩やかである。このことは外来観光客との接遇によく表れる。

② 開音の特徴が著しい。開音(e)に対応する音(ɛ)になる(行こうllイカー・だろllダラーなど)という音韻上の特色(岡田莊之輔「但馬ことば」)は但馬言葉の特徴であるが、竹野町の言葉も、例示するまでもなく日常頻繁に用いられている。

③ 一つ一つの母音が、強く丁寧に発音されている。これは、開音的特質として古い京畿語から受けつがれてきたものといわれているが、①の現象を生む原因でもある。

④ 鼻濁音「ŋ」が殆ど認められない。例えば馬・梅などの第一拍が「u」と発音されていることである。これも、③に関連してのことであろうか。

⑤ 一拍語の長音化が著しい。ハア(葉) キイ(木)などがその例である。

⑥ 固有名詞を、終わりまで言い切らない発音習慣が、開音と関連して家号を呼ぶときにみられる。

ゴラジ（五郎治） ジンクー（甚九郎） カンネモ（勘右衛門） ゴラダエー（五郎太夫） シラグララー（四郎五郎）
 これは、北陸地方の北前船寄港地にも共通する発音習慣であることから、かつての通商の名残りかも知れないが、同時に、近隣の親しさ・仲間意識・更には愛称としての呼び方であり習慣なのである。この発音習慣は、飛び地のように床瀬区にも現存し、タロデー（太郎太夫） トクデー（徳太夫） のように用いられている。

第四節 語彙

(1) 「食」に関する言葉

飯類

チャノコ（朝食） 昔の頃はオツケとココロ。

ヨメシ（夕飯） 寄り合いの席に急ぐことを「囓

み噛みで……」

ムギメシ（麦飯） 米麦の割合は七対三ぐらい。麦

にはツブシ麦とエバシ麦がある。仏さんには釜

の底の方をヨソった。エバシ麦は香ばしかった。

デーコメシ（大根飯） イモメシ（蒔飯） 米の増量

材として季節の根菜屑を刻み薄塩で炊いた。

メヨールクメシ（ヘシロでもヨウケ穫れる不味な小

豆。季節の常食で弁当にもした。イモ飯はニ

イヤリ、はポツツリした口ざわりだった。

オスモジ（寿司）

ハージャ 九月十五日に炊いたずいきも飯。

ゴッチンメシ 芯のある飯のこと。「ス」が立つと

コーボーサンの箸で釜を突いた。

チャメシ（茶飯） 法事の来客を饗す朝の馳走。番

茶を煮出し薄塩の味でよい香りの飯。

ムシコメシ（蒸菜飯） 干菜の漬物を刻み、飯の炊

き上りに加えて蒸し、混ぜたもの。

餅類

トチモチ〔栃餅〕 糯三栃七の割で搗いた。

カキモチ 柚・胡麻・大豆・黒砂糖・色粉などを混

ぜ寒中に搗き、切片を乾したもの。お茶受け・

タラシにと一年分を整えた。

ドクダメモチ〔葎草餅〕 晩秋に掘り上げた地下茎

を刻み糯を混ぜて搗いた。アメエ餅がデケタ。

葎草も栃も貴重な増量用澱粉。

ゲンタモチ〔草餅〕 イリゴ（屑米の粉）に蓬と少

量の糯を混ぜて搗いた。

ケーマブレ 搗きたての餅に餡をマブイタ。

ソバゲーモチ〔蕎麦搔き餅〕 蕎麦粉を熱湯で搔き、

ダシをつけて食べた。

汁類

ツンブリガエシ 蕎麦の練り物を大豆と煮た。

ケンチンジル〔巻織汁〕 豆腐や油揚・蒟蒻や根菜

を油でいため醤油で煮込んだ精進料理。法事の

平椀に盛ったのはケンチャン。

漬物

コーコ〔香香〕・クモジ 漬け物の総称。季節の葉・

根・果菜を漬けた。

カンヅケ〔寒漬・沢庵漬〕 デーコンを「の」の字

になる程干し、干し柿の皮・茄子の葉を混ぜ、

米糠と荒塩で漬け、夏用の保存食にした。

ウメボシ〔梅干し〕

菜譜類

ケッチラカシ〔小蕪〕

ニドイモ〔二度蒔〕・ハッショイモ〔八升蒔〕 春・

秋に収穫でき収量の多い故の命名。馬鈴蒔。

センギリ〔千切り〕 春、冬籠り用の大根の残りを

細かく刻んで干したものを。スノモンにしたり大

豆などと炊いた。

ズイキ〔ずいき〕 ズイキ蒔の茎を干したものを。胡

麻酔で食べたり産後の食餌に混ぜ、鉄分の補給をした。

魚介・おかず類

シヨウザケ〈塩鮭〉 冬の保存食。炭焼弁当のおかずにした。

コイコク 鯉の味噌煮。冬の蛋白源。一月十日のエベッサンの日川で獲り、恵比寿さんに供えた後、食べた。

タニシ〈田螺〉 稲刈り後拾ってタカに保存し、冬季山椒の葉と煮た。

デーコザエ〈大根菜〉 大根煮メ。

食器・用具類

クド かまど
ホーロク〈ほーろく鍋〉 素焼の土鍋。お茶を焙じたりあられを炒ったりした。

ワタタテツキ またたびで編んだ食器籠、漆器の椀洗いに用いた。

セツカイ 汁物をよそう杓子。

ハンギリ〈半切り〉 盥状の底の浅い桶。すし飯を混ぜるのに使う。

ナマイタ〈組板〉 キリバン〈切板〉

テショウ 〈手塩〉 お菜を採り分ける小皿。

ハコゼン〈箱膳〉 箱になっている個人膳。各人の

茶碗・手塩・箸箱を入れた。

味

ママネー・ウマネー まずい、不味。

シビー〈渋い〉 茶・柿・生栗などの味。

エゴエ〈鋭い〉 喉を刺戟するような味。

イガレー 煮焦げて煙くさい感じの味。

クチフク 魚肉が腐敗気味で酸っぱい刺戟。

モノゴイー 脂気に富んでいること。

アジコエ 味が濃い。上手な味付。

調理動作等

ボサ 食事準備。

エバス 麦を煮え脹らませること。(エメは顔面がほころび割れるの古語)

ネカス〈寝かす〉 発酵させるためにしばらく置く。

例・味噌糘を。

ホトボリ〈熱り〉 発酵熱。

ヨソウ〈装う〉 飯や汁などを容器に盛る。

テンコモリ 山盛り。

スエル〈籠る〉 食物が腐り酸っぱくなる。

アワス〈酥す〉 物の渋味を去り爽かにすること。

例・渋柿を。

食べる動作等

アダグチ 食事とは別の食べ事。

サデコム よく噛まないで急いで食べる。

タンノー〈堪能〉 満腹。同じ物を食べ飽きる。

ホケームセル 料理物の湯気に咳込む。見ただけで

食欲が減退する気持ち。

ホーバル〈頬張る〉 食べる。

ヒダルイ 空腹。食欲のある時の表現。

ヒトカタキへ一食 食事の度数。

チャチャホチャ 手間をかけた料理を無造作に食べ

てしまうこと。

マナイタナオシ〈組板直し〉 法事・祝儀の接待後

で行なう調理人の慰労会。

(2) 「農業」に関する言葉

建物・天候等

セーロ 土蔵の一隅を板で困った糶の保存庫。

ヒヤケ 旱害 待望の雨が降ると惣代からウルオイ

ヤスミ、長雨が上るとシューゲンヤスミのフレ

(触れ・撥)が出た。

田畑等

カンダ〈上田〉 一枚の田の上側。

カリユー 夏、山裾の草木を焼き、最初蕎麦、翌年

は小豆、次には粟などを収穫した焼畑。

イシガラ 小石の多い畑。

アサマチ 毎年麻を播く畑。(マチは田畑の一区画)

ムギコギ〈麦扱ぎ〉 ダダホダ (穂の不整い) の束

は焼いて穂だけを集めた。(コグはしのこと)

オカボ〈陸稲〉 味は悪いが藁が柔かくカイバ (牛

の飼料) によい。

ヤジリ 連作 例・トマトはゝを嫌う。

植付・シライ・収穫等

ウエシロ〈植代〉 田植えの出来る状態の田。

ハナドリ〈鼻取り〉 牛を先導し耕すこと。牛追い

言葉〔宇日〕ハチハチ(前へ)オー(止まれ)

トントン(後ろへ)

オーダウエ〈大田植〉 テマを頼んで大掛りでする

田植え。その家の最盛期のこと。

ハザウエ〈間植え〉ヒコウエ〈孫植え〉 植え落と

しや隅の植え残しの補植。

アリツク 苗が活着すること。

ワク 地中の有機物が腐り、ガスが発生する。

テマゲー〈手間替え〉 労力の交換。

コロク 助勢、好意による無賃労働。

ハウ〈這う〉 田の草取作業。例・ハナフツルの

にトメグサイ(花盛りに三番草を取った)。

カリシオ〈刈り潮〉カリシユン〈刈り匂〉 穫り入

れの好期。

カマイワイ〈鎌祝い〉 稲刈りが終わると鎌を清め

神前に供え、馳走して収穫を祝った。

イネバラキ・イネコキ 脱穀作業。(扱くは古語)

カチモン〈搗ち物〉 脱粒作業が要るツボのある作

物(豆・蕎麦・粟など)

タビル〈簸る〉 箕で煽って穀類中のごみを除く動

作。

ボージャー 半脱粒状の穂や豆殻など。

道具

オドシ〈威し〉 案山子など鳥獣を威すもの。

オオグワ〈大鋏〉 クワブロ付で柄が短く刃先に力

が入る。田仕事に使う。

タゲタ〈田下駄〉 深いジルタの仕事に使った長刃

一尺程の歯のない板製。

ヒズト〈火苞〉 粟の穂空ほがらを藁で包み、農作業時腰

に下げ、くすべてブト除けとした。

サンガラ〈棧俵〉 米俵の両端に付ける藁製の蓋。

例・踏み

バッチョガサ〈筍皮笠〉 雨の日のかぶり物。

肥料・燃料等

マヤゴエ 牛小屋の堆肥。敷藁を取り替えることを

し出し。積んだししがコエグマ。(盛り上げることをクマ
と言ふ。例・木クマ)

(種木)

ダル・シモゴエ〈下肥〉 人糞尿。風呂の残り湯を

入れて増量を計った。

オドロ〈柴木〉 雑木のエボ(梢)。

ベータ〈割り木〉 雑木の幹を割ったもの。

カラケシ・ケシズミ〈消炭〉

養蚕等

クワゲー〈桑界〉 桑畑。桑園。

ハルコ〈春蚕〉 六月上蒔の蚕。

シリガエ 蚕糞蚕滓ま(コガメ)を取り去って新しい

桑葉を与えること。

スガク 熟蚕が上蒔すること。

ドラ スタ(蛹)が二つ入っている屑繭。「白エモ

ン(蚕)が値のエエトキヤー黒エモン(牛)の

値がオチル」

アサ〈麻〉 大麻。化学繊維の登場までは最強の天

然繊維。麻の繊維を苧ちと言ふ。その糸を紡ぐこ

とを績うむと言ひ、苧桶に入れた。それをツブネ

テ(輪に束ね)機たにかけた。

(3) 「漁業」に関する言葉

漁舟

テングリ船 八人乗り。八本の櫓を使用。

サンバ 三人乗り。

組

アミモト〈網元〉 地引網の所有者。

アミコ〈網子〉・カコ 一組百人ぐらい。

漁具・漁法

アド 落とし網

ホダテ 鰯の地引網

オキアミ 漁網・網の漁場

魚群・潮

ヨーミ〈魚見〉 イオ(魚)が音変化したヨーを見

張る台が、ジャジャ山と賀嶋山にあった。ナダ

(近海)やオキ(遠方)の海がハムと、アミ(地

引網)を引いた。

ハム 鰯のアカミ(大群)で海面が赤黒く見えるこ

と。

イロ(魚群)「イがメールゾー。」(ヨーミから魚群

を見つけた時の呼び声)

ノボル 対馬暖流に逆って西行すること。

クダル 東行すること。

シオデ 潮の境目。(記^{シホセ(古事)}の音変化) 他にギラ・シオ

ノミチ。

儀式

ゴシヨウネ・オシヨウネ 船魂を入れる儀式。

アミオロシ 新調した網の初使用に際し、組員・親

戚が網主宅で開いた祝宴。

テシマ 村内の漁業仲間が、毎年初めて出漁する仕

事始めの宴。

アミアゲ その年の操業終了の宴。

スアガリ 休漁期。

通商

オッカケ 雇船頭による海上輸送。出石・豊岡の市

場へ運んだ。

デガイ 他地方からの仲買人。

ナワバリ 行商人の販売テリトリー(範囲)

出世魚

セイゴ (一五^{メートル}) ↓コバネ (四〇^{メートル}) ↓ススキ

(六〇^{メートル})

セイズ (二〇^{メートル}) ↓クロダイ (以上)

ヒデリゴ (二〇^{メートル}) ↓ハマチ (四〇^{メートル}) ↓マル

ゴ (五〇^{メートル}) ↓ブリ (以上)

産物

アライメ 清水で洗い乾燥させたワカメ。

シオメ 海から採取したまま乾燥したワカメ。

ホシカ 砂干し鱒、肥料用。

(4) 「地勢・気象」に関する言葉

地勢

イツ 泉・沼

イト (堰戸) 船着場。ミト (水戸) とも。

イワガナ 岩洞。

オ 山の峰。

オーカン (往還) 大通り。(和銅期の古語)

カワエート (川戸) 洗い場。

ガンケラ 岩場。

コセ (小背) 傾斜地中の小段。

ズエル 地汙り・崩れ。

タツプリ 川の淵。

タワ (撓) 山の尾根鞍部。

ナダ 沖・島の周辺。

ハマラ 浜の方。(ラはアチラのラと同じく方向を指す接尾語)

ヘシロ 日陰。

ホーキ (歩危) 川辺・崖縁の險阻な道。地内の小

字名を冠して「○○〇」と言う。

気象・暦

アイノカゼ 東風。昼前から昼過ぎに吹く。(奈良期の古語)

他にイセチ・ヒガシ。

ドーニシ・ニシ 西風。

ダシカゼ・ダシケ 南風。谷風で出漁に好都合の風

の意。他にヒカタ・ミナミ。

タカカゼ・キタ 北風。

アイノカゼ 北東風。

ナント 東南風。

ウラニシ・タカニシ 北西風。

アラツ 新雪を歩くこと。例・ゝでくたぶれた。

シモアレ 〔霜荒れ〕 降霜後雨天になること。

チヨリチヨリ 朝、雪上が歩けるほどの凍え。

人体 (5) 「人体」に関する言葉

カダラ 体 (音の転置例)

ボンノクボ 〔ドシノ窪〕 ヒヨメキ (クボは谷、間のこと)。

ヒー 〔脾〕 精気・気魄。例・ゝがつく。

デボ・デボチン・フテীগチ・ダイモンジャ 突額。

ケーガラボネ 〔貝殻骨〕 肩甲骨。

ケーナ 臂・腕。

ヤワ 脇腹。

テノコボ 掌。

シヨンガデ 指全体が短く生姜のような手。

ベンサシユビ 〔紅指指〕 薬指。

モモタ 大腿部。

ツノコボシ・ツボボシ くるぶし。

キビス かがと。

健康・病気

シコナシ 身のこなし・振舞。(江戸中期の古語)

アンペー 〔按配〕 体の調子。例・エエ。

ジャゴワエー 硬化し柔軟さに欠けること。例・ゝ

なつて梯子が怖あなつた。

ヒヨワエー 病弱。

シンキイ 〔懈し〕 ケダルイ 全身けん怠。

ヤート 〔灸〕 終つた後の呪文、くすくす金なれ火ほとり、
傷すなよまきけよまきけ百まで生けれ (火)

オオクタブレ 疲労・病気。例・仕事をモガキ過

ぎてゝが出たげな。

ケンビキ 〔痲癬〕 背筋・肩甲骨周辺の疲労。

アツケ〔熱氣〕 日射病。

カミヲトル・エズク 嘔吐する。

怪我

インノコ・グリ〔涅〕 関節のリンパ腺が腫れて痛

むこと。例・ゝがさす。(涅は暗礁のこと)

スイバリ・スイバラ・ソゲ〔棘〕。

生理

カジカム 冷えて手足の感覚を失う。

アヤコエ 感覚を失つて指が思うように動かないこ

と。共に、生気を失うこと。

オエル 成長する・芽が出る。

オムカエボクロ 老化によるシミ。

カラスナリ 指の硬直すること。

シビル もらす・失禁。

シヨクテー〔食滞〕 消化不良。

ハラゲーリ 足首の捻挫。クネル〔曲る〕こと。

ロク 跌座 あぐら。(水平・平安・安楽の訛)

(6) 「衣・住」に関する言葉

衣類

アカベベ 子供の上等の着物。

イッチヨライ〔一張羅〕 一番上等の着物。

コンパッチ 男の仕事用下着。股が割れ腰紐で締め

た。

ナガギリモン 着物。

ヤマギ〔山着〕 仕事着。

ユテ〔湯手〕 浴用手拭。

住居

オモテ〔表〕 書院のある仏間。客室にもなる。

ミセ〔店〕 座敷。

ザシキ〔座敷〕 囲炉裏のある茶ノ間。

チヨードイ〔帳台〕 納戸・寝間。

イルイ〔囲炉裏〕 座る場が決まっており、勝手は

許されない。「他家よその横座あはあに行く者は、猫か阿呆



図42 田の字の間取り名と席次

「か親方か」(不心得者を笑う雑語)

ニワ 土間。農作業場となった。

アヤーノト へ間ノ戸) 襖。

オビド へ帯戸) 障子で明り取りを作った板戸。表

と店を仕切る漆塗りの板戸。

ハシリ 台所。ハシリモトとも。

センチ へ雪隠) チョーズ へ手水) ドーケ へ胴桶) ゴ

フジョウ へ御不浄) いずれも便所。

ゼーナ 下水。

セドラ へ背戸裏) 勝手口・裏の方。

ロージ へ露路) 前庭・庭園。

カンコクセー へ紙子臭) 木屑などゴミのクスボル

臭い。(江戸期古語)

ヒコボ 炭火の入れ物。例・こたつの。(コボ、僅のこ)

ヒブクロ へ火袋) 火種を宿す。例・家はしだしけ

え火の用心せんなあ。

ブクゲ 下駄。

マカゼ へ間風) 部屋から部屋へ吹き込む風。例・

しが寒いで早う戸を締め。

(7) 「遊び」に関する言葉

ボンヤコ・ポイヤッコ へ鬼子事) おにごっこ。

(ボウは追うの古語、イヤコは、この優劣を競うときの用語。例・走り、隠れ)

ママサンゴト へ食事事) ままごこと。(コトは振舞の古語)

ホーバリコ へ頬張り 紙風船。

コブイチ・オジャミ・イシナンゴ お手玉。

サンガシ へ鷺足 タケンマ へ竹馬

カタクマ へ肩車 クビダマ へ首玉 (鎌倉期古語
カタクビ)

モチャアソビ 玩具。

ハットバリ へ通行止 手を結び合つて人を通さぬ

遊び。とうせんぼ。 (平安期古語
法度張)

(8) 「人称」に関する言葉

自称

ウラ・オラー 自分。長上への謙称。 (奈良期からの自称
代名詞。根では高

齢男性・浜では高齢女性。複数
はウララー。ラは複数
接尾語。浜の中年女性は
ワッチ・若い女性はウチ)

コチグチ 自分・仲間。対等上の謙讓語。

ワガメ 自分。

ワシ・ワッチ 自分。対等間用語。

他称

アンタ 貴方。上下を問わぬ敬称。

オノレ お前。罵語。 (もと自称
語・己)

オメー・オミヤー お前。対等下用語。 (江戸中期まで
は敬意・親愛
を示して)

いた。

ワレ・ワラー お前。卑称。 (鎌倉期以降の対下罵語。複数ウ
エーラー。例・親方が子方
家は、)

は、)

人代名詞

オジー 弟身分。

アニサン 他家の独身男性、及び既婚男性。

オッサン 他家の既婚男性。 (年齢差なく親しい
間柄での呼称。)

ネーサン 他家の既婚女性。

オウーサン 他家の高齢女性。

ワカサン 若旦那さん。

ダンサン 旦那さん。

ゴシンニヨサン 若嫁さん。

ゴリヨサン へ御寮さん おかみさん。家刀自。

コボ 男の子の敬称。卑称はガキ へ餓鬼

ジョン 女の子の敬称。卑称はビクニ へ比丘尼

オトンボ 末子。

ツレ〈連〉 友人。ツレアイ 配偶者。

マキ 血縁集団・イチルイへ二類 親戚。

アハータレ〈阿呆〉 馬鹿者。(タレは動作、状況の罵語の語尾で、憎悪をこめた単語。例：スカ)

例：スカ)

アンビド〈遊人〉 職を持たない人。

オゼーモン 利口者。

ガンマク 言いつけに従わない子。手アワズ。

キヨミズオンナ〈京不見娘〉 女中奉公(行儀見

習)の経験なく嫁ぐ娘。

ゴンボダネ〈牛蒡種〉 老若判別し難い人。新しい

ことが理解できない人。

シブチン〈吝畜家〉 けちんぼ。(チンは軽蔑の意を込めた接尾語。)

シャベリカー 饒舌者。口の軽い人。

シャントコベー しっかり者。

ダラズ 愚呆・馬鹿。

トッピーヤスケ・トッピーヤスケ 突出者。

ドンゲツ 一番ビリ。(ドンへ鈍は強の意の接頭語。)

ナキビス・ナキベソ (ナキビスホエビストリノクソアケデミタラニヤンノクソ) 泣く子への唯し言葉。イビ

スは侮蔑の接尾語。)

ネソ おとなしい者。例：ゝが事する(女に手を出

す)

ハシカイイ 俊敏な

ビョーカンタレ うかれ者。(ビョーケルへおどける・冗談)

ヤマコシ 無謀な企てをする者。

(9) 「挨拶・社交」に関する言葉

へー 昼夜の別なく他家を訪れた時の呼び掛け。

例：ゝ晩なりました。(江戸期ハイ、ハの音変化。)

オイデンサレ (来客を迎えて) よくおいでになり

ました。(敬語補助動詞「来ンサレ」は、来ナサッタの訛。京言葉の音変化。三原・根、来ナハッタは来ナツタに敬意を

加えたもの。)

ゴメンサレ 御免下さい・さようなら。訪問別辞の

両方に使用。

オアガンサツタカエ 昼過ぎ昼食は終えられました
かの意で、親しみを込めている。

エーアンベードスナ 好天でよい気分ですな。

オバンデス・バンナリマシタ 夕暮時に。

オシメーンサツタカエ 夜、仕事を終えられました

かの意で親しみを込めている。

ゴクローサンナガラ 行つていらつしやい。

ゴユルリト どうぞごゆつくり（入湯に）

キバンナハル・キバリンサルへ気張る よく精出

されます。

ヨウアリマシヨウケナー（仕事の出来ばえに對

して）それでいいでしょうの労りの意が込めら

れている。

オオキニ 有難う。

アンニヤーヘー あのなあ。親しい間柄の呼び掛け。

呼応の例。

ナンカスダイヤ、チョーチンデコヨ 何を言うかこ

の禄でなしが。（罵詈言のヌカ）
スのヌの脱落）
ヤツチャラカ 痛めつけてやろうか。

接遇の終助詞

ーガ・ーカイヤ（稍非難を含ん）例・この様はわれん

だらう。（この醜態はお前だらう）例・今教

えちやつたんだねー。

ーガイヤ（念をおす対）例・冷たからう。（冷たかつ

ただらう）

ーガナ（親愛の気持ちを示す対等上用語）例・まあようす。（気にさ

れることはありません）

ーゼ・ーデ（親愛に詠嘆）例・面白かつた。例・案

じとつたんだ。

ーチャ（反抗や非難気味）例・早うせう。するう。

ーナ（感動を示す）例・学校へ行かう。

ーナーアンタ（ナに更に丁寧と親しみの気持ちをも）例・それが

う、さんのうう（それが、きのうは）。

ーヨ・エ（親愛の情を示す対等下用語）例・倉へ入れとけう。も

どつたか。

―ヤー・ヤ（ナリ・ナより粗末な言い方。）例・まああたれー。

例・片付けとけー。

―ネー・ネ（親愛の情を示す対等上用語。）例・一服し。

―ワ（念を押し詠嘆を加える。）例・お茶汲んじやる。

―ウエーナ・ワイヤ（ナは丁寧や強い主張。）例・うちのんで

す。例・うちのんだ。

セー・ナレ（親愛・丁寧語。）例・家に上りン。例・まあ

腰掛け。

(10) 「感情等」に関する言葉

アカネコハシラス（赤猫走らす） 放火する。

アサビル 見損う。瑕疵を罵る言葉。

アクタ（芥） 人の欠点を言い立てること。例・

もくた言う。

アタースル 意趣返しをする。

チヨンナメル 馬鹿にする。（チヨンは強意の接頭語。）

イーゴト 叱言・文句。

イカツイ 醜い・非常な。

ウツカツ 優劣なし・相匹敵する。

ウンチュエーホド うんと言う程力一杯。例・痛え

目合わえーちゃれー（思い知らせる）

エー 良い。（エシーエイの音変化。デー・ネー・キレーと同じ変化。）

エゲツネー 卑劣な。

オケンテー 当然のこと・大びら。（江戸期古語）

オトロシー 恐い。驚いたの表現はオットロツシヤ。

（シイは軽蔑を含む接尾語。ムゴタライ・ニクタライ。）

オーヤゲナ のんびりした・いい加減な。

オボコエ 無邪気な・純情・娘々している。

カサダケー 目ざわり。ガサ（体）が大きい。

ガヤ 無意味 例・たれ（馬鹿を言うな）

キジツネー 気づまり・気苦労。

キホージ（気放じ） 娯楽・遊蕩（鎌倉期古語）

クチバチ（口罰） 悪口。例・当てる。

クチノカワ おしやべり。

ゲナス 人前で罵る。陰口はクサス。

ゴウワカス 激しく立腹する。他にハラワタガネー

クリカエル 〈滾る〉。

コージャゲナ 生意気で利発な。おませ。(室前期オオの音変化)

ゲナは様態を表す接尾語)

コタエル 精神的なシヨック・負担。

コンジャー 〈根性〉 悪意。性根の転位。

サーデ いずれ・ほんに・すぐ(推量の意) 例・

来まひようけー(いずれ来るでしょう)

シャニクム 嫉妬する。

シャチコバル 緊張して固くなる。

シャッチコッチ どうしても・無理無態。融通のき

かないこと。

シヨーシ 気の毒・かわいそう。

シャシャーマゲル おせっかい。

シンキクセー 面倒・大儀・わずらわしい。

スキスッポー 気儘。

セセル あら探し。

ソソカウ 悪智恵をつける・ちよっかいする。

タブレル 懐く。

タラカス 〈賺す〉 だだめすかす。

ダンネー 差し支りない・気にするな。

ツノツキアイ 感情的いざこざ。

トシガナエ 鼎かなえで湯が滾るたぎような・内輪もめ。

トチメンボー 〈栃麵棒〉 大いに当惑する。例・

振る(不意の事で慌る) (室前期トチメ)

ドンゲツ 最下位。(トンは馬鹿の強意接頭語 明治期初出) 例・げなこと

(へまなこと)

ナスクル・ネシクル 無理にこすり付ける・他に責

任を負わす。例・村役はあれとけ。

ナダテ かげ口。

ナミンダラゲ 自堕落・だらしない。

ハリヒジ(張肘)ハレヒジ 名誉。(手を横にし、左右に肘を張って威張る様から)

ビクツク 臆する。

フーガワルイ 癩しやくに障さわる。

ヘタリコム 文句をつける。ねじ込む。(コムは様態を表す接尾語。)

ネー、サ
デー、)

ヘーマブレ 無節操・ヘーへと人の言うなりになる

人。

ボイダス 逐い出す。

ホトボリガサメル 噂が納まる・沈静化する。

マシヨクニアワン 機会を失う。

ミットムネー 醜い。(ミトモナイの音変化。)

ムサンコ 出鱈目・向う見ず。例・くげな話。(ケナは)

様態の推量語尾ようである。ウレシー・ウマー。)

メツソーモネー とんでもない。

メツボ 仇。例・人をくにとつて(ことごとく非難して)

して)

メボシヲツケル (悪い意味で) 目当がつく。

ユミートル (弓取り) 一番の出来・名誉。例・今

日の芝居のくは。

ラッチモネー (うらじ) (藤次) 無秩序・出鱈目。

(11) 「人事」に関する言葉

スッテンバツテン 雲泥の差。

ツロク 均衡。例・この話(縁談)はくする。

ヤウチ 一家・仲間。

ミズサス (水を差す) 縁談の邪魔をする。

ヒエル (冷える) 破談になる。

デタチ・ミタテ 挙式前親戚への告別の宴。

ナガタンウツ 嫁が無断で実家に帰ること。

オアテゲー 案ずるよりも産むが易い。

ヨロコビ 出産。例・易うくしんさつて。

クイブチ 食分。例・誰でも我が身めのく持つて生ま

れてくるもんだ。

ブニ 恵み。分け前。得。例・あんたにヤーそんだ

けくがあるんだ。

アジケー 器量よし・整つた顔。例・ジョンちゃん
はく顔しとんさる。

オンバヒガサ 〈乳母日傘〉 育ちの良い娘。

オセンド 〈お百度参り〉 無事や病氣回復を神に祈

ること。

ソーレン・シンモー 葬式。

クヤミ 死を惜しんで、悲しむこと。

ダンダント 次第に。悔みの挨拶。例・く淋しゅう

ありましようけど。

シヨモワケ・イシヨワケ 遺品、片身分け。

ムカワリ 一周忌。

(12) 「動作とその形容」に関する言葉

アダケル 〈徒蹴る〉 在る場所の外。例・縁側から

墜落する。

マルゲル・マクレル 傾斜地から転落する。

コケル 平地で倒れる。

アリコマチ 有るだけ・悉皆。(室町期アリメノ
タケの变化)

アブタカク 安座・楽にする。他にジュラムク・ロ

ク。

イガル 子供が泣き叫ぶ。

イツシー まめまめしくよく働く様。

ウロツク 彷徨する。まごつく。

オキユ 起きよう。(室町期上) オキヨ (近代語法、
共に意志を

す。)

オーゲン 凡そ。

オーセ 〈雄兄〉

ガセー 粗い・気配りがない。他にアラクテー。

カザカス 香気をかく。(語尾カス・エルは、ヒヤカス・コロガス
のように語勢を強める言い方で鎌倉期の

名残)

カツエル 飢える。

カチメグ 叩く。(室町期
古語)

カイデル 孵化する。

カンギリカンギリ どうぞこうぞ・なんとか。

ケツチラカス 乱雑にする。(ケツは強意の接頭語)

ケガ・ブチョホー 過失。

コデガキク 器用なこと。(コは少しの意を表す接頭語)

―コソアレ 例・言うでよようするかいや。(口先

だけのこと)(室町期の呼応の姿)

コト〈講〉 「正月三日盆二日、祭ハ一日ひなか半日、

子守ちりノ休ミハ肩休メ」

サカル〈盛る〉 遊牝。他にツルム(交尾) ツガウ

(番う)

サバーヨム(鯖痕) 数をごまかす。

―サーゲナ そうな。(様態を表す語尾。例・雨が降り)

―サーナ・ゲナ (伝聞を表す語尾。例・死んだ)

スベ 技・方法。

スندگانル〈退る〉 例(囲炉裏にあたっていて) 熱

けりやくれ。(古語スカル(退る)の変化)

セングリマンゲリ〈先練り〉 代りあって・順を追

つて次第に。(マンゲリは千に掛けて方とした語呂合わせ)

ソサーナ 粗雑な・気遣いのない。

タレル〈垂れる〉 放尿する。転じて汚ない物嫌な

物の放出の意。例・あはーな。

チヨボチヨボ 収支均衡。

チヨロマカス 人目を掠める・ごまかし。

テマンゴ 手間のいる仕事。例(料理物の進呈に)

ちよつとししたもんで。

テンガー・テンゴ― 悪戯。

ドエレエ 非常に。

トツケモネ― 途方もない。

ネシクル 拭う。他にヌグウ。

ハチワラケ 八の字のように割れる・收拾がつかない様。

い様。

ヒキカマエル 心づもりをしている。用心している。

例・ととつて(役を)断るわえ。

ヒトリガンデ 自然に・自ら。

ヘグ 剥ぐ。例・化の皮いじやれ。

へツル〔削る〕ハツル〔研る〕 少しずつ削り取る・

減らす。

へーカラ それから。接続詞。

へラへットー〔平等平等〕 無暗矢鱈。

へンゲ 愛想。例・おいでんさつてもゝのねーこと

で (来て頂いても饗しができません)

ホコホコスル 懐が暖かい。対義語ピーピー。

ボル (屋根が) 漏る。(果実を) 挽ぐ。

ムックリオキ 起きたて。例・ゝ牛の草刈り。

ヤメク 大声で人を呼ぶ。

ワヤクタ 無茶で統一がない。

(13) 「経済・勤怠・職業等」に関する言葉

経済

カンガイク 差が生じる。

クチスギ 生活。例・どうぞこうぞゝしとります。

サンニョー〔算用〕 計算・勘定。

シマツ〔始末〕 儉約。例・ゝタレ。(タレは軽蔑の語尾)

モヤイ・モヤーゲン 共同出資・頼母子。共有。

ネンゴー〔年貢〕 例・ぜーない下りの田はゝが六

○東代(一反) 一石五斗。

リヤンコ 交換。

カタ 担当・担保。

チギ〔扛秤〕

キンリョウ〔斤量〕 棒状の計器。

勤怠

コウツト 仕事の段取りについて思案する時の言葉。

(道の分岐点で行き先を思案する時のコウツコウの変化。)

ケツツワル 仕事を、途中で投げ出す。

コギヤーマシイ 尻軽く精出す。(コは強意の接頭語)

シャーネ(性根) がねー。

キダテル〔気立る〕 やる気を起こす。例・餅搗きはゝんと出来れへん。

キホージ〔気放じ〕 娯楽・物見遊山。例・ゝ湯い

入^へって（疲れ直しに温泉に行つて）

(14) 「時間・空間・数」に関する言葉

時間

ヨ一サリ 夜半。（サリは来るの古語。）

ヨンベ 昨晚。（ゴンボへ牛蒡、トンのように、ンの撥音は室町期の名残り。）

アクルアサ 翌日の朝。

サキオトツイ 一昨々日。

シアサツテ アサツテ（明後日）の次の日。

シヨテー〈初代〉 以前・昔。例・ゝな。昔には。

ハツバ 半端な時間・ひまひま。例・赤にゃー田植

えのゝに乳やれ。

オ一トシ 大晦日。

タンマ 時には。

ネキ 近く。

マンゴー いつまでたつても。例・ゝ末代。

スマ 隅。

数

チ一セ一・チンコメ一 小さい。

チ一ト 少ない。

ジヨ一ニ・ジヤ一ニ〈盛〉（室町期のたくさん・多いの意。）

ヨ一ケ 沢山・必要以上。

ナルム 平均。

ナンボ いくら（値段・数を尋ねる）

チヨツキリ 丁度。

ハカイキ 量・かさ。例・ゝがする（仕事^がすすむ）

ハンツウ 残りもの。任期途中。半端。

イメクソ ほんの少し。

ヒトナギリへ一握 稲・草を刈る時の一握り分。

ダメ 重量。

カサ〈蒿〉 度・量・数の多さ。

(15) 「動物・植物」に関する言葉

動物

カセドリ 冬のやせた鳥。

カッポン 閑古鳥。

ヒーゴ〈雛子〉 飛べない幼鳥・燕。

トマス・トマ 鼬。

ムクロモチ〈土籠〉 (モグル〈母〉とモツ〈墳〉の合成。ムクロは音の消失例)

オガメ・ナタカケ・ナタギリ かまさり。

クロト こうろぎ。トチケラ・トツチンバ。

モモンジョ〈蟻地獄〉 うすばかげろうの幼虫。他

にネコボシ。

タンゴノババ あめんぼ。

コメンジャコ 目高。コメー(小さい) 雑魚。

スナホリ (鯉科) かまつか。

ドッチー・グズ かじか。

ニッコンジョ (ぎぎ科) あかざ。

ハッサー 手長えび。

植物

サンニヤー〈蝮みな〉 かわにな。(目豆のヨが次の子音ロに引か
れて目豆になる類音索引の例)

サネ〈核〉・ズ 梅・桃のように実の中にある種。

ものの芯。

エム〈笑む〉 実が熟して口を開く。例・あきびが

ゝんだ。

ノラバエ〈野良生え〉 実生。

イガ〈巖皮〉 とげとげしいもの・刺戟するもの。

カゴ〈楮〉 (古語)

ハーン〈檜〉 こなら・みずなら (万葉の古語)

ガビ〈雁皮〉

カタナギ〈刀木〉 (端午の節句に初生男子に
この木の木刀を贈った。) カブレ・ヌ

ルデ。

ツングリ 松毬。 (シは無意味)

コクバ 落葉。

ホツロ 蕨の成長したもの。

カコソウ〈夏枯草〉 うつぼ草。

カッポン 火垂袋ほたるぶくろ。

カミカザリ・カンザシ めひしば。

グスタメ じゃのひげ(竜のひげ)の実。

ケムシグサ えのころぐさ。

ドンボグサ 露草。

ヤブネコ 甘草。

マスワリ かやつりぐさ。

第五節 竹野方言地図について

狭い町内でありながら、同一事物や意志・行為を指す言葉が、極端に言えば隣り合った地区でも異なる。それは、旧藩の支配・行政区の相違に由来する独自の生活圏の長い経過から生じたのではなからうか。

三原・椒地区は、かつて気多郡に属し日高町西気・清滝地区と血縁その他に深いつながりがあり、従って言葉も共通するものが多い。インサル表現はその著例である。

竹野地区には、北前船による瀬戸内・日本海沿岸部との通商交流の名残りをみることができる。「常に・度々」を表す「エーテー」

(永代)は広島・島根・鳥取・新潟に流布している言葉である。

中地区にはその著例を見出し得ないが、奈良朝文武天皇の慶雲年間(七〇四〜七〇七)開創の峰山蓮華寺があり、鎌倉期には京都東寺より密教教学の大成者杲こう法僧正が来錫して真言の仏法を

図43 竹野方言地図



(常に、いつも) (注1)

宣布し、但馬高野として当地方文化の中心を形成している。京文化と共に京言葉が、中地区を中心に広まったことは想像に難くない。

地域ごとの言葉の違いは方言の違いである。例えば、先の「エーテ」に対して三原・椒地区では「マンモムジュー・マンムジュー」(満無終)と言う。これらの単語の地域・地区の変異が方言の違いの具体例である。

方言の違いとしては、発音やアクセントの相違などもあるが、それは今は措くとして、単語の地域差を白地図に記入したものを「方言地図」とか「言語地図」と言う。

竹野町のそれは、名詞を中心に、記号を用いずに白地図に言葉と地名を記入して示した。多くの方の協力を得たが、全町を網羅できなかつたし同一区でも年代によって違いがあり、必ずしも単一の呼称でないことなど不完全なものである。また、語種に片寄りがあリ数も限られているが、地区ごとの言葉の多様さの一端と、反面言葉によっては驚くほど単一であることを知り得る手掛りとなるのではなからうか。



(出立ち) (注2)



アカメカシワ
(赤芽膳) (注4)



(夜の漁) (注3)



ウツギ
(空木)ウノハナ (注6)



ノヒル
(野蒜) (注5)

竹野方言地図 注

- (1) 「マンムジュ」に「満無終」を当てたのは、三原区加悦敏隆氏（大正五年生）の御教示による。方言辞典にも見当たらない。
- (2) 「デタチ」は、林区では黄泉の国への旅立ちを意味し、嫁ぐための告別を意味する他区との同義語は「ミタテ」である。桑野本区では嫁入り道具披露が「ミタテ」である。
- (3) 「ヨサリ」は竹野地区では夜、海の魚貝類を漁ることであり、他地区の「ヨボリ」はすべて夜の川魚漁である。
- (4) 床瀬区の呼称は、旧盆に墓前・仏壇の供物の器代りに用いることから付けられ、正月に用いるゆずりには対比したユニークさがある。
- (5) 花が小芽球に変化したものを「ヒール」と呼んで区別している区があるが、いずれも野蒜である。
- (6) 三原地区では「ゆきのした科」の「空木（ソノキ）」を「ウツギ」と呼び「すいかずら科」の「タニウツギ」を「ホーター」と呼んで区別しているが、区によっては両者の混同がみられる。中村区では各苗代花・田植花と区別している。

第六節 竹野方言寸感

温 和

竹野町の言葉についてまず感じることには、「ようありましようけーな」「うなああんた」などの、
慎ましく丁寧な言葉にみられる温和で心解けた話し合いの優美さに満ちていることである。

また、反面、重く鄙びた趣を「ひとりがんで」（自然に）「すんだる」（退く）などの言葉は感じさせる。

それは、それぞれ狭い社会に生きるための労りであり、時に厳しく時に優しい多様な風土の人心への反映が
自ずと深い人間性を培ったの故であろうか。

侮罵語

反面人称や感情表現にみられる侮罵語の何と多様豊富なことか。

これは閉塞社会の生活の厳しさからくる貧富差が上下差を生み、その秩序の保持が戒律の厳しさとなり、人々の自由な言動を制約したことが、数多の侮罵語を生んだのではなからうか。

古語

古語の残存にも驚かされる。古語が中央を離れた地方に、方言として残っているという事実は早くから知られており、荻生徂来（一七二八年没）も「古への詞は多く田舎に残れり」と記し、

本居宣長（一八〇一年没）も、「すべての田舎には古の語の残れること多し」と述べている。竹野町も数多の古語を有している。

言葉は長い

歴史の所産

当地方独自・竹野町内のみと感じていた言葉が、意外に広く日本各地の共通語であることである。例えば、ソサーゲナ（気遣いのない・粗雑な）（ゲナは伝聞・様態を表す語尾） は全国共通のソソー（粗忽）

が変化したもの。チャノコはほとんど使われなくなったが朝飯のことである。いかにも当地方特有の言葉のよりに思えるが、九州・西国から北陸・関東の各地に散在する。それは有史以来の人と物の交流が背景にあって現在の言葉が存在しているということだろう。時空を越えて広くなった社会と言われながらも、限られた社会で生活する有限の人間であることを思わずにはいられない。

戦前「方言撲滅運動」が展開されたことがあった。それは、地方間の情報交換を困難にし政府の威令を周く徹底させるために障害物を除くことであり、方言は醜悪で野卑、駆逐すべき言語との発想に由来するものであった。すべて善いもの、価値あるものは帝都に発し、その習俗は都会的であり洗練されたものであった。

帝都を遠ざかれば、その習俗は「田舎臭い」と蔑視された。今もってその弊は残り、都市は奢り地方は自らを卑める。地域おこしはかつての地域文化を売ることであり都市への阿ねあなであって、地方に生きる誇りに発するものとは言い難い。

日常何気なく用いられている言葉は、言葉の表す意味ばかりでなく、その声の響き、また、におい・味わいというものがあつて、それが話し手の人柄と相俟つて相手に親近の佳い感じ・快さと呼ぶものである。互いに構えない自然態で、自己の心の真実を伝えあう方言は、嘘を言つても嘘をつくことの真実を伝えるものである。人々が何気なくものを言つても、それは名のある詩人が立派な詩を生むのにも似た立派な言語表現である。真似事でない自分の思いを真つ直ぐに述べたものは、みんな真面目に創り出したものだから誰憚らぬ貴重なもの、との自覚を持ちたい。

標準語の広まりは、日本語本来の魅力や美しい響きがなくなることである。言葉は生活と結び付いた大切な文化遺産。時代が変わり暮らしが変われば言葉もそれに伴つて変化するが、それはいつまでもその土地に生きる者の共有財産である。心の豊かさの源泉として大切にしたいものである。

第十四章 地名

ほしかみ
椒

●小字名 高田、番屋薊、長田、若林口、馬場、赤土田、坂畑、家ノ上、モグラ谷、鼻登、向田、大田、曲谷、深田、細ザコ、中ノ渡り、大岡田、地藏前、大尾、古大尾東側、古大尾西側、下大尾、カキン谷、口ノ新開、中ノ新開、裸谷口、イガミ、石薊、コケン谷、ジョウセン田、上り立、柿ヶ成、黒尊谷、ヨセン谷、奥田、上奥田、休場、七月田、下中田、下奥田、三宝、上ミ上野、丸山、下モ上野、長サコ、万燈場、坂、中河原、五月田、蓮花、松本、落シ、三石枋、田輪下、百町、ソラ田、間田、クゴ新開、ツキン谷、床瀬谷、森尾、向垣、検行谷、横門、三坂ベライ、母々淵、桑谷、集田、黒谷、峠、椋谷、アセ原、覆谷、マブ谷、中西ヶ谷、オノ神、猪ノ口、砥、廣田、下ボヘ、中深田、中向山、大畑、焼山、角田、竹ノ下、猪サコ、中大谷、桂、犬山、鍛下、水クル、的場、堂ノ上、堂ノ上山、狐塚、堂ノ上野、宮地、小田、畑、花蔓、北の谷、三原尾、佛石、蔵谷、田輪、中奥山、中上ノ山、谷口、踊場、堂谷口、郷中、宮ノ下、アソウ田、小堂谷、堂谷、寸原、神田、ヲトウ谷、二ツ石、向山、長田、橋詰、詰、堀、岩内、奥山、カカアナル、大谷、タガタ、郷路、奥山北、引舟、御堂野、城山、小屋ノ谷、犬谷口、段平ル、栗本、森ノ下、中住、上ノ山、アコウ谷、屋ノ上、前田、向田、舟原、梅ヶ岡、千郷、ドウドウ、片スゴ、片スゴ東、サアレン、上カタスゴ、片スゴ西、中谷、木戸岩、牛谷、牛谷口、葛野、ザアザア、熊谷、向竹田、葛

野谷口、萬野口、竹田、ナメラ、塩ヶ谷、大鳴、牛渕、西ヶ谷、小谷、四軒屋、岩本、八舛成、宮ノ君、蟹畑、カ
マガ谷、絹畑、関戸、極尻箒、金谷

●地点名(その他の地名)

床瀬、中村、下村、銅山、オオトビト、アオヤマ、番屋峠、太田越、大岡越、ナサン谷、
ミイガタ、シンメイガ森、ババガナル、ウスボコ、カメガ谷、ボウガイ、マツタテ、コジタ、ホリジウ、タワ、ワカ
ゴロシ、ミズイタニ、ソラヤマ、オクヤマグチ、シヤガハラ、ロクガツデン、ツボタ、ホソバシ、サネンダニ、ナ
メラ、大鳴坂、円山、東谷、荒神山、イシヤガタニ、ゲボシダニ、ヨジミドコ、ミナミダニ、オオガワ、ジャジヤク、
池ノ空、ナンドカリユウ、六羅、舟ヶ作、二又カリユウ、八木ノ谷、八ヶ尾、熊ノ穴、一ノ谷、アク谷、港風、堅
木原、酒ヤガ谷、カメラ小滝、イゼノ奥、ホソン谷、火打石、スイコ谷、オーバガフトコロ、ヤヤコ谷、ジユウエ
モン谷、ユヅリハ、茶園、タワ大谷、ナガノコ、牛飼尾、松立、藤巻谷、ニキブノナル、下引舟、平イ谷、上住、
下住、ハタダキ、ロウソウ、ラソロ、舟原口、奥シンガイ、ヒラソバ、ヒヨン谷、長野、アキヨシ、コツチ山、萬道、
ハナト、オコウナル、ガンダメ岩、スウダケ、キワダ、尾庄、ソト谷口、ソト谷、ヌタゴノナル、カケハシ

だん

●小字名

御番所屋敷、大楽、番屋谷、女郎屋敷、小白瀧口、白瀧口、白瀧、三助屋敷、長谷、愛宕山下、愛宕山、栃ヶ
谷、治郎兵衛谷、新林、地藏田、猫田屋敷、丸山、林裾、ヨム谷、家ノ下、ヨジロ谷、家ノ向、林平、白金山、大
ヶ成、家ノ奥、上住、中住、下ノ段、高札ノ上、家ノ上、坂ノ下、坂、コゴミ、瀬戸、山神尾、古屋敷、昼前腹、
七平衛谷、八次坂、八次、八次ホウヅキ谷、八次道ノ下、八次中嶋、八次白蔵、八次本谷

●地点名(その他の地名) 庄兵五田、マボ谷、名告場、榎谷、雛サンカリオ、医者家敷、清治郎屋敷、ホロホロ水、
八次田ノ谷、八次大成、八次太田ケ成

三原

●小字名 上サ向、タカン谷、下大成、境尾谷、古川、干畑口、向二ツヤ、ミノリ、下川原、水谷、二ツヤ、タデ原、
コウトウ口、芋坪、大曲り、水谷口、中川原、水山、水山口、前畑、向河原谷、赤ハゲ、川原谷、川原谷坂、水道、
イツノシリ、道別、春ノ木、下川原谷、八代谷、八代、辻堂、萬場住、又ラジ、榎坂、又兵衛住、天神ノ前、乳母
ケ懐、大向、菅谷、野口、上住、寺ノ逸、奥坂、下住、上ガへ、南榎坂、岡田、大堂脇、下鳥川、茶園、南辻
堂、深田、中ラ町、地主、前田、地藏山、ソラノ前、アチラ代、上アチラ代、中島、榎ノ木、丸岡、嶽ノ下、向嶽ノ下、
ヨノビガ谷、畑ケ成、ジャバミ、大栃、大成、離レ山、ミヨガサコ、田方、榎ノ木林、中里、瀧本、大山、ヒンザコ、
向林、立道、コガイノ

●地点名(その他の地名) カマガタニ、テラブン、センガ、カドオカ、ホトケ谷、キクサガタニ、砥石バ、小峠、タ
タラバ、オオビヤブ、イツガナル、シル谷、ホリザコ、キリガッコウ、松太郎住、オリサガ、タケノシタ、上垣、長
良マチ、キツネザコ、コボジヨ、ユウデン、宮ノ前、平家ガナル、榎木ガ谷、トツバラ、大山谷、ホーキ谷、木地屋、
カケガナル、奥山、林兵衛屋敷、ウセガセ、ヒルカワダニ、ヤゲン、イノハラ、チョウウシゲチ、トウザンバタ、
シノマチ、オチヤ、家ガ谷、タケ山、八右衛門谷、ワルタニ、マゴダニ、スズガナル、鉄山屋敷、オオサコ、ホソザコ、
ヒノミ、イケガナル、オウレンザコ、タキンダニ、オオタブラ、コエザオ、オスガ谷、シミズガダニ、オビヤブ、宮ノ

ウシロ、ダブセ、コタテワラ、ミズヤマ峠、ミズタニ峠、三堂野ノ滝

川南谷

●小字名 宮ノ下、ドウ坂、下地、イガ谷、イガ谷口、クゴ通り、二ツ町田、谷川、岩蔵、岡畑、岡ブチ、奥畑ケ、有馬

田、サコ、サンザコ、前田、金坪、平井、サコダ、田砂イゼノ上、田砂アゼダカ、田砂、寺田、北畑、林ゾウ、山ノ神、中川原、カン町、サンザコ山、セイ谷、イガ谷山、中ノ畑、林ノ坂、山ノ神山、ノタガナル、切畑、大サコ、天道、中尾、コセノナル、ヒツジ、ヲトシ

●地点名(その他の地名) フルミヤ、ミゾウシリ、ノダケ、カミサコ、センダニ、マタジロウ、タンノコ、イモジガナル、オナンド、アマンダニ、クラバタケ、ガアラ、クマノアナ、ヘイガナル、ゾウリミチ、テンダニ、タタラバ、コセ

桑野本

●小字名 堂ノ奥、三宝谷、堂ノ奥口、下モ川原、立花、奥ノ谷、奥ノ谷口、殿屋敷、北山、カマン谷、坊垣、尾呂、小

尾呂、コエジロ、アヤシ谷、スミヤガ谷、コエシ平岩、穂町、滝谷、ワサン谷、立中、上シヤガ谷、ホヲキノ向、ケ
ンギヤウ谷、クルビガ谷、小谷、砥石ガ谷、カッポウ、細ザコ、シシブシ、ニナイ畑、イツキガラ、鑄師ガ谷、田方、
木戸口、ガアノ、梅ガナル、アマン谷、カマコゴ、ソラ山、滝ノ片、アマン谷コザコ、山ノ神、中谷コザコ、中谷、中
谷口、清谷口、柿ガナル、ホウキ、大畑、長崎、城山、堀ガサコ、中岡、橋ガ谷、シデノ木、イガ谷、コヲロ谷、灰ヲ

トシ、センガ谷、宮ガ谷、関堂、門ノ内、小山、下タ小山、的場、コゴ田、鎌池、岡田、稲蔵、エン谷、宮ノ上ミ、
 休戸、松ガサコ、ヲボロ谷、一反畑、源ガ谷口、大ナル、池ノ上へ、滝泡、横市谷、竿田、横市、姫山、大岩口、平岩、
 イモガサコ、舟ガ谷、ウイ山、道ガ谷、梅ガサコ、出雲岩、ライタチ、コエタチ、栃カラカ

●地点名(その他の地名) タキングダニ、ホヲキノムカイ、ケンギョウダニ、セーダグチ、オカランダ、イタバタケ、イケ
 ノエ、シシブ峠、奥山、杉原谷、タカノ谷、セイ谷、大岩谷、シラス峠

大森
おもり

●小字名 小、宮ノ下モ、井郷、布尾、上井郷、道門、大、順、藤内田、地道、家ノ向、桂、上川原、栃ケ岡、
 大岩口、大岩平岩、出雲岩、道ケ谷、舟ケ谷、家ノ上ミ、上地、堂ノ前、茶園、竹向、下地、前田、西順、堀尻、
 田形、南谷口、清水場、尊谷口、三道、高山、シナラ、久保下モ、城山、北堀尻、銭上ミ、田形山、清水場山、下才
 岡、上才岡、早落シ、西清水場山、南谷山、扇ノ間、別当、横谷、南堀尻、西順、竹ノ向山、竹ノ向山、北ガサコ、
 奥谷、上ノ山、茶園山、堂奥、源ケ谷、坊主山、大岩平岩山、出雲岩山、舟ケ谷山、栃ケ岡山、上桂山、下桂山、
 家向山、井口、井郷山

●地点名(その他の地名) オジガサコ、オナンゾ、ジャワメ、セキリヨウサン、ウバガフトコ

須野谷
すのたに

●小字名 下モ三道、シナラ、寺谷口、三道、札幌、谷、下モ六谷、六谷、小谷口、井郷、新堀、谷ノ上ミ、大風口、赤

田、ドウシロ、中畦、ホウ谷、柿ガ谷口、庵ノ奥、ドウジウ、滝谷口、中長、ワタン谷口、ナゲツ谷、奥山、寺谷、柿
ガ谷、布尾、滝谷、大谷、早落、丸山、小カセ、陰谷、小谷

●地点名(その他の地名)

ツトマチ、グマ田、イリヨウ、草ガ坪、小兵衛屋敷、小五郎屋敷、出合、白ガ田、新田、
甚三屋敷、奥ドウシロ、ヘゲツ谷、古屋敷、サガ、宮ノシモ、エベス谷、下滝谷、オバガフトコロ、ヤエガキ、ヒラキ、
ハチガ谷、クマン谷越シ、ナカツタニ、ワレバ、スゲガナル、ソラゴヤ、コブラ山、銅山越シ(キタハタ峠)、メガサ
コ、ガアラ、口コエモジ、奥コエモジ、カツラ谷、マ谷、ミコシ、牛ガ首、カタスゴ峠

門谷

●小字名

浅ノ、アトリ谷、コバタ谷、サヲ口、サヲ谷、ヤナコ、ドウドウ、イチヨウ、上野、前田、チノ、スエガ谷、
アトリ、ヲバタ、アトリ東、サヲ、六谷、イチヨウ、上へ山、キヤウズキ

●地点名(その他の地名)

寺谷口、マガイジュウ、田ミナグチ、油小屋、オオダ、寺ン谷、峠(ハブ坂)、マガイジュウ、
モメンヅキ、堂谷、コダニ、イノシヤマ、タヌニアナ、ソラゴヤ、ワカツチ、川竹、マツガタニ、彦六畑、大ナル、高
山、ヨロバタケ、松林、オオカミアナ、ミツケ、シナラクチ、イシガユ、ダンダン、サカノムカエ、オバタ谷、オオ
キンダマ、清水、ハサコ、堂谷口、ドウガナル、丸山、小谷口、キヤウジキ口、坂畠

河内

●小字名

古川、松葉、東谷、一ノ滝、向谷、大奥、三谷、大畑、北向谷、猪ノ谷、ヲシヨフ、チノ、浅野、寺谷、

●地点名(その他の地名) ナガサコ、ヨノナル、キリガ谷、オオビラキ、カマ石
 堂ノ奥、ホフキ山、上ノ山、前田、川谷口、ミヨガ谷、カクシ畑、キダチキ、タン中、クグルミ、中尾、大空、カニヤ
 フ、スガマ、サコ谷、宮谷、平田、大谷

御又

●小字名 風呂谷、東谷、熊田、下川原、札場、寺坂、タモノミヤ、仲寺坂、長井谷口、長井谷、太良右工門、平岡、
 向山、モモ木谷、桃木谷口、宮ノ谷口、葛原、中川原、坂本、大谷口、ホガサコ、大谷、山ノカイ、相谷口、西相谷、
 東相谷、猪ノ谷、角谷、角谷口、神原下、ハサコ、出口、家ノ脇、堂ノ山、猪ノ谷口、西ノ野、清水岡、仲田、岩根、
 清水田

●地点名(その他の地名) 八反滝、カケアシ、夏木場、小モチ、大モチ、キジヤシキ、ユズリハ、オバフトコロ、大ナ
 ル、滝谷、アマオ、トイシ谷、ナメラ、大滝、小滝、ホソオトシ、コザク、コヤーシ、ヤナギ、アマオグチ、オヤーシ、
 シリベツタリ、オオナル坂

小城

●小字名 ヲガチ、トウゲ、ヨウセン、谷田、フケダ、タナカ、イベスノ、ワナミ、クマナカ、野辺、アラ谷、前田、中
 河原、下ツクラ、見岩、シバラ、タカハチ、寅山、秋山、中河原山、川原谷山、荒谷山、野辺山、ヨロズ山、寅山谷、
 ヲウセン山、小河内

●地点名(その他の地名)

ヒデカサク、亀ガナル、下トウケ、ヨウセングチ、奥ヨウセン、岡ノ下、地藏様、上タナカ、下タナカ、ワナミ口、長マチ、アラ谷口、上ツクラ口、北谷、本谷、池ノ谷、湯トノコ、大空、横道、船谷口、梨ガ丘、ゲンボウシ、一ノ谷、六郎谷、トチギリイ、中山、マボウ、空山、小谷口、城山、滝坪、池ノハタ、舟谷、ワル谷、木戸口、大滝、ゲンゾウガナル、ケエバヤシ、上住、下住、マルイワ、アワラ、カワラトホリ、ナカトホリ、ヨコマクラ、カワラグチ、シモイチノタニ、ロクロタニグチ、ホボキ、オウジタ、オカサキ、フダバ、サガ、ムコウヤマ、ケイサツダニ、カンツクラグチ、コダニ、マエダシヤマ、オナガタニ、シヤクシ、二ノ谷、ブトダニ、ゲンヒチヤマ、ホウキ、ヤスミイワ、キンバヤシ、デンザ、二ノ谷口、オワガリユウ、オオイワ、アマノオ、ミヤノヨコ、サンボウサン、イチノシル、ミズガケ、シモミズガケ、オカチナダ、スリバチ、オオバタケ、ブドウ山、ヤスイダニ、セキダハナ、ヤケヤマ、シランダニ、スノコダニ、キクダニ、ゴトガリユウ、ミツケ、オオダキ、ソラゲンゾ、カヒチガリユウ、ヤゲンダニ

二連原

●小字名 ハンガイ、宮ノ下、家ノ向ヒ、虫原、小虫原、向ヒ田、フチノハタ、上川原、井関ノ尻、上小谷口、上小谷、上ノ山、ゲンタ、荒谷口、荒谷

●地点名(その他の地名) ホウキ、アカタキ、ミヨウガナル、オオボトケ、テンネリコ、スリバチ、サンマイ、オオナ

ル、カクシナル、セキド、コゴセ、イチノセ、ジャジャコ、二ノセ、ヨコバタケ、コバラチ、キグマ、ハラチ、アマガタニ、アカナメラ、奥山口、コヤダタキ、ヤスンバ、コボトケ、シモミヨウガナル、アメ岩、オダガナル、ハウソノ谷、ゼイノキ、ヒナタ

森本 もりもと

●小字名

田尻 たじり、政岡 まさわか、木谷口 きたにぐち、市場 いちば、古川 ふるがわ、竹ノ坂 たけのさか、ユリ山 ゆりやま、家ノ奥 いへおく、苗原 なえはら、下梅田 しもうめだ、森本 もりもと、上梅田 かみうめだ、岩渕 いわぶち、竹ハナ、川井谷 かわいだに、ユリ、トウゲ、小河内 おがち、神原 かみはら、神原下 かみはらした、ホウキ、下ツクラ しも、上ツクラ かみ、荒ヶ谷 あらかた

●地点名 (その他の地名)

イチバ峠 いちばとうげ (タカンザカ)、岩根 いわね、ハナミジ はなみじ、千本ガナル せんぼんがなる、小谷 こたに、梅ガサク うめがさく、ベニ畑 べにばたけ、牛ガ首 うしがくび、六兵衛畑 ろくべゑばたけ、長タキ ながたき、ハン谷 だに、ゴウノ坂 ごうのさか、ゴロ谷 ごろだに、ヌスピト谷 ぬすびとだに、上ガケ うま、スギナワテ、オシハラ、サガノソラ、アキヤマ、ツツミ、宮コセ みやこせ、ヤスイダニ、タキガイワ、モトミヤ、タキガシリ、ヨキドガハナ、イボコボ、カキノウチ、ユルデ、オオナル、クマガアナ、北ノ谷 きたのたに、赤ミチ あかみち、シヨウジ畑 しょうじばたけ、ハチガワ、大谷 おほいたに、赤タキ あかたき、ドロブチ、トチガサク、ピアンダニ、カシラ、ワナミ、ヤマサキ

坊岡 ぼうおか

●小字名

村下 むらした、岡前 おかまえ、市場 いちば、向山 むこうやま、向山下 むこうやました、大内 おほうち、宮ノ脇 みやわき、坊岡 ぼうおか、鯖谷 さばだに、木谷口 きたにぐち、大畑 おほはたけ、正新 しょうしん、森 もり、小判谷口 こばんだにぐち、葛山 くずやま、虫山 むしやま、荒谷口 あらかたぐち、栃原 とちわら、判谷 はんだに、坂谷 さかんだに、スガ町 すがまち、峠 とうげ、下木谷 しもきだに、池ノ谷 いけのたに、葛又 くずまた、峠谷 とうげだに、上木谷 かみきたに、谷 たに、ワナミ

●地点名 (その他の地名)

タニタンボ、オオカミダニ、イツギ谷 いつぎだに、森ノ口 もりぐち、森ノ奥 もりおく、ジンベエ、イタンバ、クズマタ、デアイ、ムシヨウ、奥イタンバ おくいたんぱ、オカダニ、スミガマ、コダニ、ヤナギタニ、杉原 すぎはら、ソバ谷 そばだに、桂 かづら、サカジリ、オンナガタ、シモヤマ、ウルシキ谷 うるしきたに、ナシノキ谷 なしのきたに、キタン峠 きたんとうげ (下峠 しもこうげ、中峠 なかこうげ、上峠 かみこうげ)

はやし
林

●小字名 横谷、漆原、三谷、三谷口、平山、村向、坂ノ谷、堂ノ脇、仲田、三十八、出ノ内、淀谷、地藏の下、色来谷、林、宮谷、宮ノ下、三味岡、立野

●地点名(その他の地名) カン谷、堂ソン谷、杉谷、岩ガ谷、ツベト、スイブチ、オオハタ、カツ谷、ホリゴシ、アカズエ、ヨノモト、シモ谷、オンナガ谷、イワ根、テングノマイ、カンジロウオチ、テラサク、コゲジリ、サルケ谷、ホソングダニ、コゲ、シラナメラ、善五郎オチ、シラタキ、イガダニガリュウ、イノ谷、タカンバ、コモク谷、ドンド、オオヨセ、カイガマヨリ、オオナル、カツラ谷、中ノ谷、タン原、タヌキ穴、ヤスングダニ、コブダケ、ヨノモト、メンシヤ畑、コ谷、ダング、中オオ、ネゴシヨウ、ロクロ、コウフ、ノマチ、タカングダニ、ノウチ、ゴウロ、キタン谷、ハリヤケ、オクハリヤケ、カアアカ谷、マオトシ、ハイマツ、コウモリ穴、イモ、スベリオ、マンバ、タツサカ、ジイヤガ原、下谷、ジュウラ、林谷

きんばら
金原

●小字名 キ、ヤ、ボウラジ、家ノ下口、浪瀧、家ノ上、家ノ奥、家ノ下原、金山、宮ノ後、桐ケ谷、家ノ上原、船越、家ノ向、家ノ向原、七々越、ヌタ

●地点名(その他の地名) ジイサク、ヒトツヤ、バアヤシキ、アクソ、イワバナ、コナミタキ、フクノ、サンボウ、テツザン、オオドチ、ホソングダニ、キタングダニ、ツチダケ、ソウザ、クレシ、コウセン、イガミ、スゲノタニ、カミコダ

ニ、シモコダニ、オオタキ、シヤノウエ、ユダンバタ、トチヤマ、田上たのうえ、大文字だいもんじ、トトハラ、オリサガ、モチネ谷たに、イケマチ、シヤジカ、ノゾキ、スゲネ、古宮ふるみや、恵日えひ、小滝こたき、ダイモンジ峠とうげ、クレシ峠とうげ、コウセン山やま

東大谷ひがしおおたに

●小字名 大谷口おほたにぐち、堂ノ前どうまへ、宮ノ谷みやのや、才谷さいたに、寿賀口すけぐち、カツラ、奥カツラ、田上たのうえ、虫谷むしのや、水谷みづたに、奥水谷おくみづたに

●地点名(その他の地名) 日ノムクひ、スガ谷すがたに、キジヤ、大岩おおいわ、アクソ、ザラザラ、バヤシキ、オオグリヨウ

下塚しもづか

●小字名 城下しろした、廣門ガ谷ひろまかたに、風呂屋ガ谷ふろやがたに、城山しろやま、堤つつま、大谷口おほたにぐち、助谷すけたに、タキノウエ、滝ノ下たきした、高谷たかたに、ホウキ山やま、田尻たじり、立野たちや、

家ノ上いえかみ、棚田たなだ、宮ノ下みやした、家ノ下いえした、ミゼミ、ババ、下虫谷しもむしたに、オオゾラ、奥虫谷おくむしたに

●地点名(その他の地名) ヨコテ、ヤシキ台だ

轟とどろき

●小字名 阿古谷口あこたにぐち、長法ちやうほう、森脇もりわき、古市場ふるいちば、森田もりた、山カゲ、家ノ前いえまへ、轟とどろき、ヘイガ坂へいがか、イセキ、六郎谷むろろたに、カミヤシ、酉申とらる、

大ベライおほべらい、宮谷みやたに、船越ふねこし、船越口ふねこしぐち、ヌタ、大谷おほたに、コウヤツボ、カンカゲ、川バタかわばた、向山むかやま、城山しろやま、阿古谷あこたに

●地点名(その他の地名) ナガサク、古宮ふるみや、森谷もりたに、森谷口もりたにぐち、スガマチ、イシヤマ、ヤマノカミ、タナモト、トツサル口とつさるぐち、スモモ、舟ガ谷ふねがたに、梨ノ木なしのき、ヌタ口ぬたぐち、オイワ谷おいはたに、ザラザラ、アラガ谷あらがたに、シラ滝しらたき、ウバガブトコ口うばがぶとこぐち、ヨシソギ、ババ、ミズ

ガテ、太平ガ谷、シラ水、水カタ、七平谷、アガマチ、オイガオトシ、ヘイサク、ミコタニ、ウルダニ、レンゲ谷、イケドリ

鬼神谷

●小字名 宮ノ下、仲田、鬼神谷口、外川原、前田、ホウキ、ヲジタニ、上ノ谷、村奥、コイジ、ユウメ、長滝、下滝、大谷、桂ラ、引谷、瀧谷、寺谷、西ノ谷

●地点名(その他の地名) カイサンブン、チャエン、ダイチン田、詣、道分レ、山ノ神、テラヤシキ、ドウヤシキ、ツジドウ、ソバサコ、ニユウバタ、トチモト、ラントウバ、ヤスミバ、ヘンド、ナバアネ、タキノウエ、ワタタニ、オンダニ越シ、ナガタキ道、オトシ、ナガタキジリ、一本枒、オオダキ、ダイミヨウ、ヤマコダニ、オオゾラ、須井越シ、ウズワ、ワニダニ、大桂ラ、小桂ラ、イタバナ、ハカノタニ、サルシベタ、ヒシロヘリ、ヨコテ、イデガスメ、古川

小丸

●小字名 古市場、新田、沖河原、小丸口、ヲリト、小丸、高尾、長尾、トイシ、大岩
●地点名(その他の地名) ダイジョウゴ、カジヤ、ナバタニ口、ナバタニ、ヤマノカミ、センズ、ヤネンダニグチ、ヤネンダニ、ホソンダニ、オオナル、ウメンダニ、ウメンダニグチ、コサラバタ、サラバタ、タノウエ、ウスンダニ、コサカ、タキンダニ、フネガダニ、クロゲダテ、クリバラ、ヤキスギ、オキヨト、キリガナル、ウスン谷

芦谷 あしだに

●小字名 芦谷口、百合迫、蔵谷、西ノ谷、芦谷、菱谷、柿ノ谷、長迫、一本木、水上、崩、小津辺、年処、大津辺、古峠、琵琶

●地点名(その他の地名) シモゴウリ山、サコグチ、ドンドバ、小谷、タニノオク、札場ノ辻、マツンガミ、タンジガタ、ダイヤマ、チャボウジ、マタニ、コヤノタニ、カナオシ、シヤジバタ、ウシノヲ、ダケ、カヤバ、タキツボ、サカノタニ、ミズガサク、カヤノ谷、ゴカナル、ピワガ谷

須谷 すだに

●小字名 永田、堂ノ前、向台、出持口、中道、神戸口、小野口、小野鳴、小野、神戸、小谷、門前ノ下、門前ノ奥、尾谷、ワンチャ、破レ滝、ケンボ、二ノ滝、ヲバガ谷、長滝、丑引、寺奥、浦板、湯谷、清水、俵谷、赤目、台所、境内、村内、西谷、真角、宮ノ鳴、井山、井山口、田尻、若宮、大谷、長法寺、岡田、出持

●地点名(その他の地名) ヒナサキ谷、床尾谷、熊オトシ、雨フリ谷、オバクソ、セリ谷、ヤガ谷、コヤガケ、上ノ山、犬オトシ、ミコン谷、オムシガマ、代官屋敷、ヤハタガハナ、ダイチン谷、コトコシ、クチナシ、桑ノ木ガ谷、大滝、ヤケン谷、カネホリ地、ツツボジリ、ビシヤモン谷、古スミ、上永田、下永田、ウノ松、与三右エ門谷、ネコノババ、トコウ谷、古角、下ノ大谷、大ナル、彦治谷、本谷、ピクニ城、インノモリ

和田 わだ

●小字名 石橋いしばし、太田口ただぐち、太田ただ、竹比たけひ、八王寺はちおうじ

●地点名(その他の地名) シロ山しろやま、キヤアゼンカイ、ワダノ下した、アナダ、クラ谷たに、ミソジリ、クラタニグチ、ミヨウケ
ン谷たに、六地藏むくじざう、クマダ、タモノ森もり、ツン谷口たにぐち、ツン谷たに、フナガ谷たに、南谷みなみたに、ナガモチ谷たに、中ノ谷なかのたに、北谷きたたに、カンノバ、カ
エルタ、カミ谷たに、シモ谷たに

阿金谷 あこんだに

●小字名 溝尻みぞしり、飛行島ひこうじま、山崎やまざき、谷口たにぐち、大谷おほいたに、ツン谷つんたに

●地点名(その他の地名) 清水ガ元しみずがもと、チャエン、アラシマ、オオサク、ヨノキ、サクラ山さくらやま、タカナシ、イナンバ、キリ
トウシ、キリキ谷たに、クスレ、チンゴウサク、イラン谷いらんたに、ウシン谷うしんたに、カン谷かんだに、ヒチヅクリ、金ヶ谷かねがたに、行者ガ谷やうじやたに、ニウダー、トバナ、
カボチャ谷たに、フネガ谷たに、墓地ぼかち、ツレガ谷たに、ヤクシ、蛇ガシラへびがしら、左タワひだりたわ、ニエボウキ、イズモチ、イモジモドシ、イモジモドシいもじもどし 峠たけ

羽入 はじゅう

●小字名 鍋田なべた、タモケ森たもけもり、大前おほまへ、山崎やまざき、フロケ谷ふろけたに、寺ノ下てらした、石原いしばら、来行くるがひ、湯谷ゆたに

●地点名(その他の地名) フルカワ、穴田あなだ、フケ、スゲン谷たに、大門だいもん、デンコウジ、タカトウ、トリガミ、カタヤマ、カ
ヤバ、フルサカ、キツネガタニ、アサマチ、マイゴダニ、チャヤバ、オオマガリ、ショウエン、ダイシロ、キリトウシ、

ジャガシラ、シャウバラ、ヤットコセ、バンノクレ、ロッコウサン、スギンタニ、オクナカ、コイナバ、シミズモト、ヤマサキ、ナカミゾ、デマチ、シングウ谷、カタ山、トリカネ、ヤマノカミ、ダイエン、ジョウデン

松本 まつもと

●小字名 荒田ケ坪、入道、惣計田、松ヶ瀬、池ノ内、熊中、長フケ、大前、フケ、宮ノ下、高橋、見蔵岡、小三杉、土生谷、松本、イツノ奥、小森岡、古法寺、イナリ、長尾、笹山、から谷、日南向、新宮、牛ン谷、殿ゴラジ、ロクログ、大谷、板作、荒谷

●地点名(その他の地名) 清水元、茶屋場、高塔、サンボウユウジン、タカオカ、サイノカミ、イイダニ、オオミスギ、エル谷、ミズ田、カマイシ、クワガハラ、オムシバマ、ガンバアラ、イシハラ

草飼 くさかい

●小字名 草飼、中村、御堂谷、シゲ谷、峯谷、大谷、安井、寺谷、妙見谷、小門谷、妙見谷口、六地藏、大木野、向畑、釜藤、恵日、山王田、一ツ橋、家ノ前、門谷口、毛子谷、曲リ谷、門谷、家ノ上、祥谷、坂、切谷

●地点名(その他の地名) 上ノヤシキ、オエン、イナバ

竹野 たけの

●小字名 賀鳥、浜岡、馬場町、東町、竹岡、中町、上町、下町、中島、西町、江川、後坪、菴蛇、南菴蛇

少々谷、大平井、水取、江口、近江、佐田、沖ノ田、下広田、岩田、上広田、退欠、麦ヶ坪、引舟、橋詰、二町ヶ坪、オノ神、中島、保出、井越、新田、下河原、高橋、三杉、見蔵岡、入谷、小引、東道、釜石、中道、西道、川崎、土井、前田、上ノ山、ウジマ、今後西谷、今後東谷、今後東谷口、大坂、浪竹、大間、大間殿岳、青井、代浦

●地点名(その他の地名)

ヨコバマ、公園、五社、マドジマ、タンジヨウ、オカミ、ハマージ、オドロカ、テラサカ、ハサミバコ、カミジ、オヨウジ、サンガラマツ、シタワラジ、ムカイ、イナバ、ハイセン、オバアノフトコロ、アガリグチ、ミゴシ、ナカーゼ、カジュカ、テグチ、ホリカワ、ジャジャ山、カイセイ、レンガー、コダキ、ドウドウ浜、ペンテン浜、ツルソ、マラ磯、千畳、イガイ島、竹濤、平床、西ノ平床、万十島、猫崎半島、青島、赤島、小浦、小浦鼻

宇日

●小字名

下モジ、ソタン谷、イソジ、上ミジ、宮谷、ラクムカイ、川住口、クマ谷口、クマ谷、石休、川上口、コワクソグチ、ワワクソグチ、セトジ、下ジ堂、上ジ堂、大ベライ、上赤畑、穴谷、森上、ウイ谷口、横手、上モク、焼尾口、ウイ谷、坂ノ谷、小峠、西谷、鬼ヶ坪、カタ山、中ジ、川尻、小宮谷、釜石、川住、チャエン、亀ノ松、板尾、セトジグチ、清水谷口、下赤畑、穴谷口、ミコシラ、ムクロサコ、女郎畑、クツレ

●地点名(その他の地名)

権現谷、モン上、モン上グチ、小谷口、ナメラガ谷、コゴロメ、コメラガ谷、イチバガ谷、ニバガ谷、ローガ谷、ヤシラ谷、大空、赤ツレ、畑川住、ジャクジン、ホウチヨウ島、冠島、フク島、黒島、宇日ノ鼻、松カ下

田久日

●小字名 脇ノ居、宮ノ下モ、宮ノ前、向山、小池、大ダケ、コハマ、ミヨウズ、赤嶋、ソラ松崎、オの神、コンバ、大ガリウ、ケブカ谷、セチン谷、タアゲイ、畑山、坊主ガ鳴、奥山、瀧ノ上、瀧ノ下、磯ノ上、浜谷、ヤブサ

●地点名(その他の地名) 弁天サン、シタアラ、平井ノ端、ヒロシマ、オームキャー、イガチ、小平井、権現サン、ドウゾー、コブンダニ、クロサキ、オテンガラ、スリバチ、オオナル、コヤマ、ミヨウズのオリクチ、上地、中地、下地、イト、シタアラ、タンボリ、オオナル、イソジ、ハザク、エビン谷、オオザキ、キワタガ谷、奥イソ、テラヤシキ、高島、横島、トド島、大島、唐戸、ヨゴレバマ、八方岩、マツザキ、コイケノシリ、赤崎、オオダケ、モリアゲ、桜谷

切浜

●小字名 ヨコハタケ、ハツタニ、コダニ、ヤナギタニ、カナブケ、カワソタニ、ギオン、イシブセ、マツラ、セイウミ、モグラタニ、ナルト、カシタニ、ケンタニ、ナシタニ、アカサカ、米山、トンボウセ、アランタニ、ヒロハタケ、スワングタニ、ドウド、クマヤマ、イエノワキ、コギ、タモン谷、今森、イクシロ、今坂、堤谷、大畑ケ、カメ村、上道、浜頭、下山、上ノ山、大浦、三谷

●地点名(その他の地名) ヤングタニ、セイカイ、コメヤマ、トンバゼ、ツツミダニ、ケゴヤ、アセイ、ウチガイ、シオノ田、野マチ、ヤノウラ、コマンジュウ、オオマンジュウ、ヨド、トリガス、清水ケ谷、シヤクシ、ホーロク、トイシ場、ダイノ田、キイタニ、マンゴウ、スイ坂、小マン浦、黒崎鼻、色力崎、大岩

浜須井
はますい

●小字名 大須井、西ノ尾、磯山、向山、岡ザコ、向横畑、ユサキ、見取、岡ノ内、チャン峠、ギオン田、タコン田、森ヶ下、梶山、一反畑、神ノ上、小鯨、大鯨、土生、カラン谷、カヤノ、下道、亀坂、船越、佛山、トンボウジ、梶橋、イン谷、中田、上ノサコ、岩倉、松ノ本、町田、サコ、大谷ノ大ナル、大谷、スクモ山下、須井、ハサマ、上ヶ原、船津谷、マガリト、峠、大ラ、濱頭

●地点名(その他の地名) オイズ、チャンタゲ、キヤノ、ミナミタニ、平兵衛ザコ、ギャジラ、西ノ谷、オオサコ、オハタ、ハナスケ谷、オサメガナル、東坂(須井坂)、ハシゴ、イワシ山、大島

奥須井
おくすい

●小字名 トンボウジ、寺ノ下、タキ山口、タキダ山、タキ山、小タキ山、大谷、古住、上ヶ山、袋口、下袋、上袋、日ノ本、イゼノ谷、石休、コン畑、去ル尾、カヤノ、トチ山、スガ谷、大山口、ツモツ、上エ道、長瀧、臼谷、堂谷、桂口、桂、亀坂、下ノ町、佛山口、佛山、小谷口、入道谷口、結、コゼ山口、小屋ノ谷、船越、細見、女口、向ノカヤノ、中ガシ、大名屋敷、カラン谷口、上ガシ、カラン谷、丸山、土生口、鯨口、宮田、ハナト、入河原、奥角河原、堂免

●地点名(その他の地名) ナルサコ、ハタビキ、畑落、佛谷、前森脇、山崎、ジトクアン、猪谷、丸山口、カサガシ、フナコシ

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

峠

